

ANNUAL REPORT



認定NPO法人マドレボニータ 年次報告書

2020（令和2）年10月－2021（令和3）年9月





2020年も皆さまのご支援にて、たくさんの家族に産後ケアを届けることができました

ご挨拶

共同代表理事長
中桐昌子



共同代表理事長
山本裕子

日頃よりマドレボニータの活動を応援くださり、本当にありがとうございます。事業承継のバトンを受け取り、新体制となって丸1年。日々、事業に懸命に取り組みながらも、メンバーそれぞれの強みや個性を鮮やかに発色させながら、一人一人がリーダーシップを力強く発揮し、新しい組織基盤を創ることができた一年となりました。

団体内外問わず、それぞれの分野や持ち場で社会をよりよくしたい！という熱い思いを持ち、力を尽くそうとされている方たちとの出会いに、とてもエンパワメントされると同時に、自分には、自分たちには何ができるのか？何がしたいのか？を改めて問いかけて続ける日々でもありました。

そんな一年を通して、確固たるものとなった想い。『産後』を起点に集まった、ひとりひとりのLIVE YOUR LIFEがあり、そこから立ち上がってきたものの集合体がマドレボニータでありたい。個を尊重し、大切にしながらも、集合体だからこそ生み出せる力で『産後』から社会を変革していきたい。

引き続き、皆さまと一緒に、誰もが自分らしく力を発揮し、誰もが自分らしく生きられる社会を作っていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします！

いつもあたたかいご支援ありがとうございます。新体制となり、1年が経ちました。団体経営においては、会員のみならずは、団体外のさまざまな分野で活躍されるみなさまからも、たくさん支えられ、励まされながら、ここまで歩んできたことができました。改めて御礼申し上げます。

新しいインストラクターが5名誕生し、彼女たちの溢れんばかりのパワーに刺激され、今、団体内では心地のいい波が押し寄せているように感じます。しかし一方で、未だ全くおさまる気配のないコロナとの戦い。一寸先が見えない状況が続く中、どうやって産後ケアを届けていくかに頭を悩ませる毎日でもあります。常々「自分の人生を歩むためには体力と仲間、そして覚悟が必要！」と伝え続けていますが、今まさにこの言葉が自分に響く毎日です。

まだ混乱の日々が続くと思いますが、今まで以上にセルフケアを大切にしながら「すべての家族に産後ケア」の実現に向かって進んでいきます。

これからも様々な角度から産後ケアを普及させる活動をおこなっていきたくおもいます。引き続き、皆さまのお力をお貸しいただければ幸いです。



新体制1年目のマドレボニータは新しい養成スクール、産後ケア教室における大学との共同調査研究、『産後白書4』制作、オンライン両親学級など、さまざまなチャレンジに挑んできました。

そうしたチャレンジから得られた手応えや新たな課題があり、何より産前・産後のご家族、企業・自治体・他団体などさまざまなセクターの方々との新たなつながりが生まれたことが、マドレボニータの一番の財産なのではないかと感じています。

いま試行錯誤しながらチャレンジすることが、5年後、10年後のマドレボニータを創ります。ありたい姿と未来・社会に向けて一歩ずつ活動を進めてまいりますので、今後とも応援のほどよろしくお願いいたします。



どんな船に乗り、どこに舵をきるのか。団体としても何度も対話を重ねているテーマですが、コロナ禍で働き方も大きく変化し、団体も新体制になり、一人ひとりがどんな風に舵を取って進むのか考えもいた1年でもありました。

マドレボニータという団体も、個人の集合体、ひとりひとりが自分の力を発揮していることが希望だと感じています。養成事業では、この1年で新しい産後ケアの担い手もたくさん増えました。新たな仲間の思いや活躍が心からの喜びです。産後を起点に、一人ひとりが力を発揮し自分らしく生きる社会の実現を目指していきます。いつも心温まるご支援、本当にありがとうございます。



がむしゃらにやってきた一年が、新しいマドレのかたちをつくっていく。今、この一年を振り返ってみて率直に感じていることです。

ときどき「疲れたな」「大変だね」と愚痴も言うこともありつつ、でも目の前にある仕事と課題を黙々とこなしてきました。結果として、養成事業の分野では、新しい産後ケアの担い手がたくさん誕生しています。「産後ケアの担い手を増やすことで、これまで届けられなかった家族にも産後ケアを届けることができる」という確かな手応えを感じています。

がむしゃらな最中には見えないけれども、ときどき手足を止めて見渡してみると、想像を超えた景色に幸福感を感じ、「また次の一年もがんばろう」と力が湧いてきています。



日頃よりあたたかく支えてくださり、ありがとうございます。先日はクラウドファンディングにも挑戦し、多くの方から様々な形でエールを送っていただきました。改めて、皆さまからのご支援で活動していただいていることへ感謝をしています。

団体内では様々な個性がはじける1年となり、新しいことへ挑戦し、応援する文化の心地よさを感じています。

「産後ケア」の普及は産後女性をエンパワメントするだけではなく、その家族へ、社会へとプラスの変化を作り出していくものと信じています。

互いに応援しあえる社会を目指して、これからも活動してまいりますので、引き続きご支援よろしくお願いいたします。

教室事業



対面とオンラインプログラムの実施で 途切れることなく産後ケアプログラムを提供

2020年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により、外出自粛などによる子育て家庭の孤立が危惧されました。マドレボニータではこの一年、刻々と移り変わる感染状況を注視しながら、対面とオンライン両方を実施することにより、産後ケアプログラムを提供してまいりました。また、みてね基金・日本財団・東京マラソン2020チャリティ・J-Coin基金・コロナ給付金寄付プロジェクトのご支援により、多くの方へ受講料補助を行うことができました。

教室事業の実績

2,500組に産後ケアを届けました



対面プログラム

983組

産後ケア教室 495組
産後のバランスボール 98組
その他の単発 390組



オンラインプログラム

1,517組

産前・産後4回コース講座 833組
産前・産後単発講座 180組
シングルマザー向け講座 490組
オンライン両親学級 14組

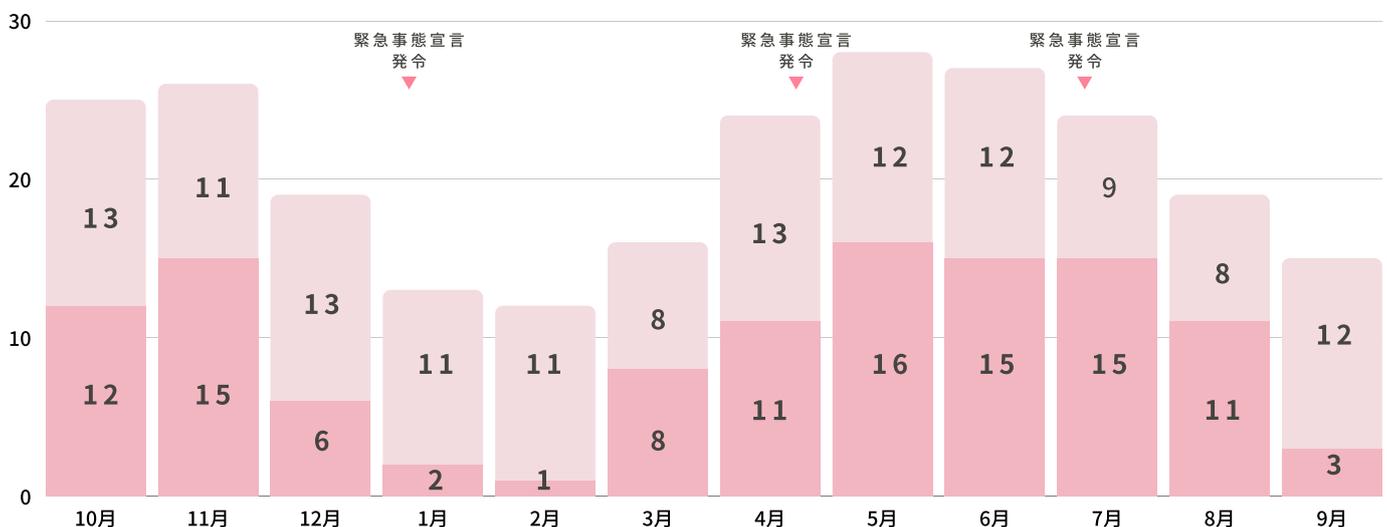
主なプログラムの前年度比

教室数減少と新型コロナウイルス感染拡大の長期化の影響で対面の教室開催数は大幅に減少しましたが、産後ケア教室の満席率は約5%増となりました。

		開催数	受講者数	満席率
産後ケア教室 (4回コース)	2020(令和2)年度	115	495	66.2%
	2019(令和元)年度	190	881	61.3%
産後のバランス ボール教室	2020(令和2)年度	31	98	34.5%
	2019(令和元)年度	71	234	41.7%
オンライン講座 (4回コース)	2020(令和2)年度	133	833	77.1%
	2019(令和元)年度	39	312	88.8%

月別教室開催数

■ 対面教室(4回コース) ■ オンライン教室(4回コース)



マドレボニータは、東京マラソン2020チャリティ事業の寄付先団体です。

▶東京マラソン2021チャリティ公式ウェブサイト <https://www.marathon.tokyo/charity/>

▶マドレボニータ特設サイト <https://www.madrebonita.com/marathon>

教室事業

オンラインプログラム開発

オンラインプログラムの普及、そしてコロナ禍が続く中でも安心して出産・産後を迎えられるよう、オンラインプログラムの開発を進めました。産前産後のオンライン教室・アドバンス講座を2021年8月から、オンライン両親学級を2021年7月から開始しました。オンライン両親学級は、2021年夏に実施した共同代表2人のバースデードネーションのご寄付をもとに運営しております。



オンライン両親学級

夫婦で産後の知識を学び、対話し、準備ができる講座です。オンライン化により、里帰り中や入院中にご夫婦が別々の場所から参加や、産褥期に体を休めながらの参加も可能になりました。



アドバンス講座

運動を習慣化したい！筋トレももっと負荷の高いものに取り組んで、おなかを平らにしたい！という声に応えるプログラム。基本のオンライン教室よりも負荷・強度をUPしたストレッチ+筋トレ+対話からなるレッスンです。

産後ケアバトン制度

コロナ禍でも、より孤立しやすい母子に産後ケアを届けるために。産後ケアバトン制度は日本労働組合総連合会様の愛のキャンパ助成、lululemon様のご寄付にてご利用者の受け入れができました。現在、ひと月に4組までの枠を設けて提供しており、制度を支えてくださる個人・法人様からのご寄付を募っております。

産後ケアバトン
制度の詳細は
こちら！



www.madrebbonita.com/madre-carebaton

提供実績

年間支援組数 (うち介助ボランティアあり)	26組 (11組)
累計支援組数	1,231組

事由の内訳

多胎児の母	ひとり親	障がいのある児の母	早産児の母	産前入院した母
16組	5組	1組	1組	3組

ご利用者の声

この度は、産後ケアバトン制度を利用させていただきありがとうございました。お陰様で久しぶりに楽しみながら体を動かすことができました。双子育児をしていると、社会から取り残されているだけでなく、単胎児のママさん達とも私は違うんだと、勝手に孤独感に苛まれることがあります。ですが、今回参加させていただき、みんなと一緒に体を動かし、お互いの話に耳を傾けられたことで、これからはもっと色々なことに自分から積極的に関わっていきたいと思うようになりました。今回、私が受講するにあたり、インストラクターの井端さんをはじめ、たくさんの方々にサポートしていただいたこと、大変感謝しております。本当にありがとうございました。
(多胎児・早産児の母より 2021年6月 中目黒教室)

体を動かすことと、誰かと少し深めの話をする事のどちらともが産後の自分にはとても効果が高かったため、子連れで、両方セットで実現できるのが、唯一マドレボニータだけだと思い、勧めたいと思いました。
(ひとり親の母より 2020年12月 中目黒教室)



感染症対策

2021年3月より、伊勢原駅前クリニックの長嶺由衣子医師に、対面教室の開催判断の目安や、対面教室を開催する上で気をつけるべきことを相談させていただいています。その内容を元に、「感染症対策マニュアル」を作成し、感染者数・感染状況にあわせて2回の更新をしました。現在教室では、ボールなどの使用備品をアルコール消毒したり、赤ちゃんはキルトマットの上ではなく個別のヨガマットなどの敷物の上にごろんとしてもらったりと、除菌・換気・密にならない環境をつくりながら開催しています。



教室事業



企業との取り組み

社員向け受講料補助はオンライン教室を中心に受講いただきました。コロナの影響で教室数が減少したため、受講者数は減っていますが、新しいプログラムであるオンライン教室の受講が増えています。

産後ケア教室受講補助 導入社数 (社員向け受講料補助制度)

	2019 (令和元)年度	2020 (令和2)年度
法人数	9社	7社
提携や受講料補助での産後ケア教室(4回)受講者数	54名	19名

企業向け「産前講座」導入社数

	2019 (令和元)年度	2020 (令和2)年度
集合研修型	1社	1社
オンライン型	3社	3社

自治体との取り組み

以下の自治体にて対面講座・オンライン講座・動画提供を行いました。

- 北海道苫小牧市
- 北海道厚岸町 (オンライン)
- 北海道妹背牛町
- 宮城県気仙沼市 (対面/オンライン)
- 栃木県宇都宮市
- 東京都北区 (動画)
- 神奈川県鎌倉市
- 神奈川県横浜市
- 岐阜県山県市

岐阜県山県市



北海道妹背牛町



北海道厚岸町 (オンライン)



他団体との取り組み

妊娠・出産そして産休・育休・職場復帰…といったライフステージの変化に寄り添う団体さんにお声がけいただき、より多くの方に産後の準備や産後ケアについてお伝えできました。また組織運営についての講演機会もいただきました。

- 3/9 NNネット主催SRセミナー
「NPO/NGOにおけるリモートワークと働き方- 社会的責任 (NSR) の観点から -」 (共同代表 中桐昌子)
- 3/24 育休コミュニティMIRAIS主催イベント
「“わたらしい”復職に向け、育休中にできること」 (理事 長野奈美)
- 6/20 夫婦会議 LOGISTA株式会社主催イベント
「オンライン両親学級『夫婦会議』のすすめ (第三回) 夫婦で『産後ケア』を話し合おう！」 (共同代表 中桐昌子/山本裕子)
- 9/12 育休ガイドIKUMICHI主催イベント
「『未来の家族図』を書くためのワーク&トークイベント」 (共同代表 山本裕子)
- 9/22 育休プチMBA主催イベント
「私が無理したまま復職して大丈夫? ~産後の身体と両立の悩みに寄り添ってみよう~」 (共同代表 中桐昌子)



養成事業



誰もが学べる『あたらしい養成スクール』開講



マドレボニータがこれまで育成してきた産後ケアのプロフェッショナルは、産後女性の心身に寄り添い伴走する専門家として高度な身体スキルや知識、指導力が必要になるため、それ相当の適正と時間、そして鍛錬が必要になります。そのため産後ケアの担い手がなかなか増えていかないという課題も同時にありました。

そこで既存の養成コースにくわえ、これまで以上に担い手の裾野を広げ、社会的インパクトを拡大すべく「誰もが自由に学べるオンラインスクール」を新規開講しました。

『産後セルフケアアドバイザー』『産後セルフケア指導士』誕生

あたらしい『養成スクール』はすべてオンラインで開催。産後うつなど、産後が起点となる社会問題の理解や、産後のセルフケアについての指導法はもちろん、修了後すぐに自分自身で場づくりができるような事業プランニングなど、多岐にわたるプログラムを実施しました。前期養成スクール第一期生として保健師、看護師、産後ドゥーラ、アロマセラピスト、ヨガ講師、子育て支援施設の職員、企業の教育担当者、保育士など、産後女性、または育児中の女性と接点をお持ちの方が多数参加され、うち10名がすべてのカリキュラムを修了。『産後セルフケアアドバイザー』9名、『産後セルフケア指導士』1名が誕生し、習得したスキルと知識をもってそれぞれ各地域にて「産後ケアサロン」（産後についての講義や産後のセルフケアレクチャーを行う講座）を開催中です。

産後セルフケアアドバイザー

公式Instagram

<https://www.instagram.com/35.selfcare/>

野田綾さん（岩手県）

<https://www.noda-aroma.com/>

橋本和良さん（宮城県）

<https://www.facebook.com/kazuayo.koyama.1>

平田まりやさん（埼玉県）

https://www.instagram.com/ma_ma_mariya/

丹羽洋子さん（岐阜県）

愛葉千景さん（愛知県）

渡邊さやかさん（三重県）

<https://35tokai-tomos.jimdofree.com/>

林有美さん（三重県）

https://www.instagram.com/yumi_35self/

吉村ゆかりさん（三重県）

https://www.instagram.com/eucalyplus_0888/

田代亜沙美さん（兵庫県）

<https://instagram.com/live.a.special.life/>

産後セルフケア指導士

小山田由貴さん（石川県）

<https://linktr.ee/yukioyamada>



インストラクター5名が誕生

2年ぶりに開催した2020年度後期養成スクール。コロナ禍での初開催ということで、これまででは一部のカリキュラム&認定試験を現地開催していましたが、今期からトレーニング期間のカリキュラムを完全にオンライン化。日々の鍛錬での孤立を防ぐため、週に1回オンラインで顔を合わせながらの身体トレーニングの時間を持ったり、月に1回お互いの想いを共有したり、セルフマネジメント（相手や自分を理解してよりよい結果を導き出すスキル）を学ぶ時間を設けました。北海道から静岡まで物理的な距離はあれど、互いの望みや想いを共有し、励まし合いながら鍛錬を積み重ね、2021年12月に認定インストラクターとしてデビューしました。

桐原沙織さん（埼玉県）

<https://ameblo.jp/saorikirihara/>

杉村美穂さん（静岡県）

https://note.com/miho_sugimura

竹原瑠衣さん（千葉県）

<https://note.com/ruitakehara>

平野聡恵さん（北海道）

<https://ameblo.jp/you-go-girl-fun/>

宮澤千尋さん（東京都）

<https://www.35familylife.com/>



2020年度養成スクールは日本財団の助成を受けております。

Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

研究開発事業



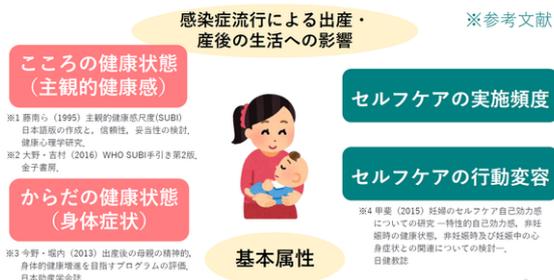
調査研究①

「コロナ禍のオンライン産後ケアプログラムの効果」

2020年、マドレボニータでは新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、対面での教室開催を一時自粛。オンライン型の産後ケアプログラムを開発し同年6月に提供をスタートさせました。このような在宅の妊婦や産後女性に向けたオンラインプログラムはあまり例がなく、知見も少ないため、実践しながらその効果を測定し、持続可能な支援の方法を模索する必要があると考えました。そこで日本体育大学と協働し、オンラインプログラムによる影響を精神的・身体的側面から評価することを目的に調査研究を実施。2021年7月には調査結果のプレスリリースを配信し、調査研究報告会を開催しました。

(調査時期：2020年7月～11月)

アンケートの構成要素



結果② 身体症状

✓ 受講前とくらべ、身体の自覚症状が改善された

	慢性疲労			肩こり			腰痛					
	受講前	受講後 1か月後	3か月後	受講前	受講後 1か月後	3か月後	受講前	受講後 1か月後	3か月後			
まったくあてはまらない(0点)	3%	3%	10%	8%	3%	3%	8%	23%	15%	21%	24%	20%
すこしあてはまる(1点)	44%	45%	63%	37%	20%	20%	44%	39%	39%	34%	42%	32%
かなりあてはまる(2点)	35%	30%	23%	32%	30%	41%	31%	23%	18%	21%	21%	25%
非常にあてはまる(3点)	18%	23%	4%	23%	48%	37%	17%	15%	27%	24%	13%	23%
		5%増				11%減				3%減		
		14%減				31%減				14%減		
		5%増				33%減				4%減		

▼論文はこちら

「コロナ禍における産後女性の心身の健康支援を目的としたオンラインプログラムの効果(第1報)」

野村 由実, 荒木 智子, 吉岡 マコ, 杉田 正明
(女性心身医学, 26巻2号, p.153-164)



▼プレスリリースはこちら

運動と対話によるオンラインプログラムが、産後の心身の健康増進に寄与することが明らかに



調査結果サマリー

- ①運動と対話によるオンラインプログラムは、身体症状の改善、主観的健康感の向上、セルフケアの継続、健康への意識や取組の変化など、産後の心身の健康増進に寄与することが明らかとなった。
- ②COVID-19流行によって出産や産後の生活に何らかの影響があったと回答した産後女性は98.6%に上り、コロナ禍の母親を取り巻く環境の変化の一端も明らかとなった。
- ③プログラムの長期的な効果の持続には限界があることから、社会的な繋がりや支援を得づらいコロナ禍における産後女性の孤立や健康問題の予防のため、継続的にプログラムを享受できる仕組みが望まれる。

調査研究②

「コロナ禍における妊産婦の心身の健康状態とパートナーシップの実態」

妊産婦の行動制限による身体活動量の変化と心身の健康状態、そしてパートナーシップの実態を明らかにすることを目的とし、日本体育大学・大阪行岡医療大学と共同で調査を行いました。(調査時期：2021年4月～10月)

▼調査研究の詳細はこちら



PC用リンクはこちら

調査研究③

「産後女性の心身の状態と産後のパートナーシップの実態」

『産後白書1』の発行から13年。コロナ禍での産後女性とそのパートナーを対象に、産後の心・体・パートナーシップについての実態調査を実施しました。(調査時期：2021年4月～10月)

調査結果をまとめた『産後白書4』制作プロジェクトはボランティアメンバー19名が参画。2022年1月に発行いたしました。

2020年度調査研究事業は日本財団・みてね基金・公益信託 オラクル有志の会 ボランティア基金の助成を受けております。

Supported by

産後白書4

2022年1月発行

▼ダウンロードはこちら

www.madrebbonita.com/sangohakusy4

研究開発事業

マドレストア

マドレストアは2021年3月をもって休止いたしました。長らくのご利用本当にありがとうございました。

マドレストアで取り扱っていた書籍の在庫は、自治体などへの配布に備え保管しています。お近くの自治体への献本のご希望などありましたら、事務局へお問い合わせください。

『マドレ式対話の場づくり手引き（PDF版）』は、「全国マドレ式対話の場づくり研究所」にて、入会募集期間に限定販売されています。

AmazonでKindle版を購入可能です

『産褥記』シリーズ

『産前・産後のからだ革命』シリーズ



コミュニティ・組織運営

マドレジャーナル

2020年12月より、新たな形態のマドレジャーナルの発行を開始しました。

これまでの印刷冊子からWEBでのPDF公開に変更し、産後ケア普及のさまざまな取り組みや知見を広く読んでいただけるようになりました。

▼公式サイトマドレジャーナル公開ページ

<https://www.madrebonita.com/madrejournal-web>

第1号

コロナ禍の『とりくむ産後ケア』を考える NPO法人マドレボニータ オンライン産後ケア教室の挑戦

2020年初頭からのコロナウイルス感染拡大により対面教室の休講を余儀なくされた中、産後ケアの現場にこだわってきたマドレボニータがどのようにオンラインプログラムを立ち上げたのか。開発の過程とインストラクターの生の声をお届けします。

（執筆：八田史さん）



第2号

コロナ禍でも、コロナ禍だからこそ届けたい『産後のリアル』 マドレ・オホーツク初、自治体とのコラボ&オンライン両親学級開催までの歩み

会員チーム マドレ・オホーツクで企画・開催されたオンライン両親学級。自治体助産師さんと吉田紫磨子インストラクターがダブル講師となりました。コロナ禍での開催の裏側や工夫が詳細に綴られています。

（執筆：マドレ・オホーツクの皆さん / 吉田紫磨子インストラクター）



人権・ハラスメント対策

2020年度は人権・ハラスメント対策への取り組みを強化しました。内容は大きく5つに分けられます。

- 【予防】パルスサーベイ実施（心身の健康チェックと業務状況の確認）
- 【環境整備】弁護士監修のもと規程類の整備（ハラスメント対策規程、各種別登録・更新契約書など）
- 【対応策】ハラスメント対策窓口設置・フロー策定
- 【啓発/周知】人権・ハラスメント対策研修実施
- 【予防/周知】マドレボニータの行動規範策定

マドレボニータの行動規範

人権ハラスメント対策の日常的な予防と周知のため、内部のアンケート回答をもとに「私たちの大切にしたいこと～マドレボニータの行動規範～」を策定しました。

自分も相手も尊重しながら、日々の産後ケアの活動に取り組むための指針として、報告会やプロジェクトのキックオフ、養成スクールのスクーリングなどでも折に触れて読み直し、確認しています。

▼公式サイト「マドレボニータの行動規範」

<https://www.madrebonita.com/code-of-conduct>



支えてくださった 企業・団体の皆さま



マドレボニータの活動は個人・企業・団体さまからのご寄付・助成により支えられております。日頃からのご支援に心より御礼を申し上げます。（五十音順・敬称略）

朝活バランスボール部	医療法人社団友愛会 岩砂病院・岩砂マタニティ	MS&AD ゆにぞんスマイルクラブ	公益信託 オラルク有志の会 ボランティア基金
法人会員 医療法人社団SJS 金子レディースクリニック	キタカンボニータ	Google合同会社	全国マドレ式 対話の場づくり研究所
相互保育de弾もうの会 (週末朝活ジャズダンス)	東京都福祉保健財団	東京マラソン 2020チャリティ	日本財団
日本労働組合総連合会 「愛のカンパ」	パブリックリソース財団	法人会員 認定NPO法人フローレンス	マドレボニータ東海TOMOS
マドレボニータ栃木	みてね基金	法人会員 株式会社メドイット	lululemon

メディア掲載実績

新聞：3件／テレビ：1件／ラジオ：1件／雑誌：1件／WEB：7件

産後ケアを支援 NPO共同代表 山本 裕子さん(43)

産後の心と体をいたわろう

聞き手：安真梨子

取材させていただいた
NPO法人マドレボニータ
代表 吉岡マコさん

産後の体に特化したケアで元気を取り戻し、自分らしい子育てを産後ケアのプログラムを全国で展開するNPO法人マドレボニータ。20年以上、産後の女性に寄り添い、心と体の両方からアプローチする同代表・吉岡マコさんにお話を

TBS NEWS

産後ケアを しっかりすることが
家族・社会全体の幸せにつながる

ENEOS
FOR OUR EARTH
-ONE BY ONE-
NAVIGATOR: AKANE HOTTA

わたしたちの地球の未来を守るために
いまできることを一緒に考える30分

ロードマップの先の明日へ

「すべての家族
—生命を守り、絆—」

0歳ママに無料で提供 自信と笑顔を取り戻す産後ケア

みてね基金
2020年12月3日 19:36

▼ 目次

特定非営利活動法人マドレボニータ

産後の心身の悩みに寄り添い、家族を支える

産後の心身ほぐして 浜松の山城さんがオンラインで伝授

2020年11月12日 05時00分 (11月12日 05時03分更新)

初めての
出産準備
ベビー用品★大研究

初めてのベビー用品★大研究

産後の心身ほぐして 浜松の山城さんがオンラインで伝授

産後の心身の悩みに寄り添い、家族を支える

産後の心身ほぐして 浜松の山城さんがオンラインで伝授

2020年11月12日 05時00分 (11月12日 05時03分更新)

マドレボニータは、東京マラソン2020チャリティ事業の寄付先団体です。
▶東京マラソン2021チャリティ公式ウェブサイト <https://www.marathon.tokyo/charity/>

▶マドレボニータ特設サイト <https://www.madrebonita.com/marathon>

会計報告

2020年度は、前年度から継続してコロナ禍での事業縮小を余儀なくされる一方、事業収益につきましては、昨年開催出来なかった養成事業で養成スクールを前期後期に渡り開催できたこと、またマドレストアの感謝セールにて多くの方にご利用いただき、予算を上回る結果となりました。事業への助成に加え、その他収益として月次支援金、一時支援金、一部の休業補償助成金を計上しております。費用面では新体制への移行と同時に、各種費用の削減や、一部書籍在庫の処分、システム面での管理体制の見直し等にも注力しました。

活動計算書 (2020年10月1日～2021年9月30日)

一般正味財産増減の部		
経常収益		
1. 受取会費		2,164,500
2. 受取寄付金		2,811,302
3. 受取助成金		25,012,456
4. 事業収益		6,721,090
5. その他収益		970,350
経常収益計		37,679,698
経常費用		
1. 事業費	人件費	3,305,363
	その他費用	30,737,349
2. 管理費	人件費	1,419,278
	その他費用	1,668,633
経常費用計		37,130,623
税引後当期一般正味財産増減額		479,075
指定正味財産増減の部		
I 受取寄付金等(指定正味)		21,940,000
II 一般正味財産への振替額		13,879,514
当期指定正味財産増減額		8,060,486
次期繰越正味財産額		23,488,875

貸借対照表 (2021年9月30日現在)

資産の部		負債の部	
流動資産		流動負債	
普通預金	26,810,365	未払金	2,528,547
貯蔵品	342,812	未払法人税等	70,000
未収金	203,718	未払消費税等	257,300
前払費用	78,371	前受金	1,685,283
立替金	169,140	預り金	315,508
流動資産合計	27,604,406	流動負債合計	4,856,638
固定資産		固定負債	
ソフトウェア	594,000	固定負債合計	0
商標権	147,107	負債合計	4,856,638
固定資産合計	741,107	正味財産の部	
資産合計	28,345,513	1. 指定正味財産	
		当期指定正味財産増減額	8,060,486
		2. 一般正味財産	
		前期繰越正味財産	14,949,314
		当期正味財産増減額	479,075
		正味財産合計	23,488,875
		負債及び正味財産合計	28,345,513

監査報告書

2021年11月14日

特定非営利活動法人 マドレボニータ
 理事長(共同代表) 中桐 昌子 様
 理事長(共同代表) 山本 裕子 様

監事 岡本 拓也
 永田 恵美

私たちは、特定非営利活動促進法第18条の規定に基づき、特定非営利活動法人マドレボニータの2020年度(2020年10月1日から2021年9月30日まで)の事業報告書及び計算書類(財産目録、貸借対照表及び収支計算書)について監査を行った。

私たちは、理事の業務執行の状況に関する監査に当たっては会合を持ち、必要と認める場合には質問を行った。また、経営の状況及び財産の状況に関する監査に当たっては、帳簿や証拠書類の閲覧、照合、質問等の合理的な保証を得るための手続きを行った。

監査の結果、法人の業務は法令、定款及び2020年度の事業計画に基づき適正に執行され、会計処理は一般に公正妥当と認められる会計原則に則って適正に処理されているものと認められた。

よって、私たちは、上記の事業報告書及び計算書類が、特定非営利活動法人マドレボニータの2021年9月30日をもって終了する事業年度の業務執行の状況、経営の状況及び同日現在の財産の状況を適正に表示しているものと認める。

[マドレボニータのトランジションの経過]

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の影響により、2020年3月以降は対面での産後ケア教室開催が困難となり事業収益が大幅に減少し、6月以降は新たな取り組み(オンライン講座、シングルマザーのセルフケア講座、新養成コースプログラムの開発など)も開始したが、一方で経営方針を巡る関係者間の意見の相違が生まれ、2020年12月の理事改選を経て、新たな体制の下で事業を継続することとなった。

事業面においては、対面による産後ケア教室の段階的再開、受講者を対象としたコロナ禍における妊産婦の実態調査研究(大学と協力)、産後ケアバトン制度の再開、オンライン講座形式の両親学級の開発、新たなスクール形式での養成コースの開始、マドレボニータ独自の調査研究(産後白書4)など、新しい生活様式に対応すべく工夫した上で、各種事業を推進した。ガバナンス・コンプライアンス関連の取り組みとしては、ハラスメント対策のフロー策定・研修実施、マドレボニータ行動規範の策定、毎月のパルスサーベイによるインストラクター・スタッフの状態把握、ガバナンスの認証取得への取り組みなどを通じ、団体のガバナンスのあり方を見直しつつ、その強化をはかってきた。さらに、経営体制強化の観点からは、民間企業と非営利団体が社会課題解決事業の経営について本質的な議論・協働を行うプログラムに理事が参画するなどの取り組みを行っている。

以上のとおり、新体制の下で昨年度の課題については着実に対応が進んでおり、事業及びガバナンスが適切に機能しつつある状況と考えられる。新たな体制での経営は2年目に入るところであり、引き続き法人の業務が適切に執行されるよう、注視する必要がある。

以上

ご支援のお願い



ここまでお読みいただき、ありがとうございました。

新年度も「すべての家族に産後ケア」の実現に向け活動を展開してまいります。皆さまからいただいたご寄付はインストラクター養成や、産後ケアバトン制度の運営など、産後ケアを広く普及するために使わせていただきます。ぜひ、活動へのご支援をお願いいたします。

毎月の寄付

● マドレ応援団（マンスリーサポーター）

- ・クレジットカードで毎月一定額をご寄付いただく仕組みです。
- ・毎月のご寄付額は1,000円／2,000円／3,000円／5,000円／10,000円からお選びいただけます。
- ・会報、年次報告書や毎月のメールレター、限定Facebookグループで活動情報を随時ご報告します。

お申込みはこちら

<https://www.madrebbonita.com/donate-monthly>



いつでも、おいくらからでも

● 銀行振込でのご寄付

ゆうちょ銀行 10190 37231

(他行からのお振込は ○一八店（ゼロイチハチ店）普通 0003723)

口座名義 特定非営利活動法人マドレボニータ

三井住友銀行 永福町支店 普通 7231754

口座名義 特定非営利活動法人マドレボニータ

● クレジットカードでのご寄付・古本でのご寄付（チャリボン）

お申込みはこちら

<https://www.madrebbonita.com/donate>



マドレボニータは認定NPO法人です。

寄付された方は、確定申告により寄付金控除等の税制優遇を受けることができます。

※対象：単発寄付、継続寄付（マドレ応援団）、賛助会員費

- ・所得税減税のほか、自治体によって住民税が減税となる場合もあり最大50%の減税となります。
- ・相続財産寄付・遺贈寄付は非課税となります。
- ・法人の場合、法人税を軽減させる「寄付金損金算入枠」が3-5倍になります。また、一般枠と特別枠の合計額まで損金にできます。

ご不明点やご質問はマドレボニータ事務局（info@madrebbonita.com）までお問い合わせください。



Madre Bonita

発行人 特定非営利活動法人マドレボニータ

住 所 〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-15-9

シルク恵比寿403

公式サイト <http://www.madrebbonita.com>

メール info@madrebbonita.com（事務局）



SNSでも情報発信中！

Facebook



Instagram



Twitter

